関西モダンデザイン史

—百貨店新聞広告を中心として—

宮島久雄（前国立国際美術館長）著

まえがき

大正から昭和にかけて、大阪の百貨店（在阪百貨店）は呉服店から百貨店へと成長を遂げる過程で、店舗の増築、新築、移転を繰り返しながら、設備と組織を近代化し、激しい販売競争を行なっていた。その販売促進策のひとつに、当時、これも激しい競争を展開しながら成長していた大阪朝日新聞、大阪毎日新聞という二大新聞紙上に載せた広告活動があった。このような百貨店同士の広告競争のなかから、カットを中心とする、日本の伝統文化を反映した独自の「日本のモダンデザイン」が生まれたのである。しかし、このことはあまり知られていないように思う。

これまで知られてきた新聞広告図案は食品、化粧品、薬品、あるいは雑誌のカット広告などであった。それらと百貨店の新聞広告との基本的な相違は、百貨店の広告対象が時間的にも、地域的にも非常に限られた範囲のものだという点にある。そのためにこれまで注目されることがなかったのだといってよい。しかし、そこには、全国向けではないがゆえに、地域の生活や文化が反映しており、さらに競争を通じて洗練されることによって「日本のモダンデザイン」の域に達することもできたのである。

本書では、まず、呉服店時代の大阪の百貨店が大正時代に心斎橋筋から堺筋へと移り、さらに昭和にはいって、再び心斎橋筋と御堂筋に移動し、これに郊外電車の終点駅難波と梅田のターミナル型百貨店が加わったことを新聞広告を通して概観した。次いで、二大新聞の台頭にともない、新聞広告の競争が激化し、とりわけ大丸と高島屋が広告図案の面で激しく競い合ったこと、そこにおいて森脇高行、柴田可寿馬（大丸）、高岡徳太郎、今竹七郎（高島屋）といった図案家、いまでいうデザイナーたちが広告カットに腕を競い合ったことを明らかにした。この競争は第二次世界大戦で一旦途絶えたあと、終戦直後のアベノ近鉄、阪急百貨店間の競争へと引き継がれ、そこから早川良雄（アベノ近鉄）、中島康雄、山城隆一（阪急百貨店）があらたに登場した。彼らが描いた和風モダンカットこそ「モダン洋風図案」として「日本のモダンデザイン」の典型だと私は考える。

本書の後半では、この「日本のモダンデザイン」展開の背景として、大阪毎日新聞社による商業美術振興運動という広告図案の懸賞募集事業、さらに便化から単化へという図案法の展開事象を取り上げ、最後に、「日本のモダンデザイン」が洋風新図案あるいはハイカラ新図案からモダン洋風図案へと展開したことを考察した。

■体裁　A4判　上製函入　本文312頁　挿図1100図
■定価　21,000円（本体20,000円＋税）
ISBN978-4-8055-0593-9　C3076

目　次

まえがき

序説　在阪百貨店成立小史

第一章　座売り式呉服店
第二章　陳列式呉服店
第三章　堺筋百貨店時代
第四章　御堂筋デパート時代

第一部　新聞広告の近代化

第一章　白木屋―カタログ広告
第二章　大丸―森脇高行
第三章　大丸―柴田可寿馬
第四章　高島屋―高岡徳太郎
第五章　高島屋―今竹七郎

第二部　広告図案の近代化

第一章　ランラン広告―今竹七郎
第二章　商業美術振興運動―大阪毎日新聞社
第三章　便化法と単化図案
　第一節　便化法
　第二節　単化図案
第四章　アベノ近鉄―早川良雄、阪急百貨店―中島康雄

終章　モダン洋風図案

挿図一覧
あとがき
人名索引

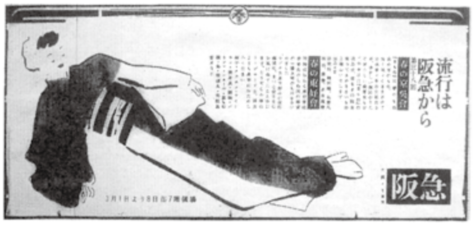
24　早川良雄　新聞広告　昭和25年9月9日　朝日新聞（朝刊）

1　早川良雄　新聞広告　昭和26年9月11日　夕刊毎日新聞

19　早川良雄　新聞広告　昭和23年12月15日　朝日新聞（朝刊）

52　阪急百貨店　新聞広告　昭和25年3月30日　朝日新聞(朝刊)、大阪日日新聞（夕刊）、大阪新聞（夕刊）

41　中島康雄　新聞広告　昭和25年3月4日　大阪日日新聞（夕刊）、朝日新聞（朝刊）



44　中島康雄　新聞広告　昭和26年3月1日　夕刊朝日新聞

著者略歴

宮島久雄
（みやじま　ひさお）
前国立国際美術館長

昭和11（1936）年大阪府生まれ
昭和38（1963）年京都大学大学院修士課程修了
京都工芸繊維大学、京都大学を経て、国立国際美術館長（1998～2005）
S･ビングの論文でジャポネズリー研究学会賞(1986年)、著書『関西モダンデザイン前史』（中央公論美術出版）で意匠学会賞（2003年）
訳書『バウハウス叢書』の内
　第5巻　モンドリアン『新しい造形（新造形主義）』
　第6巻　ドウースブルフ『新しい造形芸術の基礎概念』
　第7巻　グロピウス『バウハウス工房の新製品』
　第9巻　カンディンスキー『点と線から面へ』
　第14巻　モホリ=ナギ『材料から建築へ』　及び別巻

関西モダンデザイン前史

2003年1月刊

宮島久雄　著

■体裁　A5判　上製函入　本文554頁　挿図505点
■定価　13,650円（税込）　978-4-8055-0425-3

近代デザイン史の研究は、産業及びデザイナーの養成のための教育機関との関係、地域産業、地域文化の観点、先進諸国からの文化受容の観点から行なうことが出来る。本書は大阪を中心とする関西の近代デザインの歴史を地域性の観点から把握しようとする労作である。

76　水島爾保布　コマ絵「人魚」大正11年

26　名越国三郎　カット（恋ごころ）大正2年

18　浅井忠　「ロアン河の舟遊び（鳥眼模様）」

中央公論美術出版
http://www.chukobi.co.jp
〒104-0031　東京都中央区京橋2-8-7
電話　03-3561-5993　FAX　03-3561-5834

お取り扱いは